

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学籍番号		氏名	
学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2023年8月から2023年12月
派遣大学名	カセサート大学	所属学部等	

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Agro-Industrial Thermal Processing Technology	01058223	2	内容の専門性も高く、期末・中間試験で問われる内容も記述が多い。授業内容を踏まえて自身で考える問題も出題される。
Principle of Tropical Agronomy	01013231	3	比較的覚える内容が多いが大学で学んだ内容も多少含まれている。また、全体の評価におけるレポートや課題の配点も高い。
Introduction to tropical Agriculture	01013111	3	各分野の教授が交代で授業を行うため熱帯農業を薄く広く学ぶことになる。フィールドトリップ後のレポート配点が非常に高く重要。
Thai Conversation in everyday life	01363201	3	授業はハイペースで進行するが試験はオンラインで行われ、基本的な内容しか問われない。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
09:00					Principle of Tropical Agronomy		
10:00							
11:00							
12:00							
13:00			Introduction to tropical Agriculture	Thai Conversation in everyday life			
14:00	Agro-Industrial Thermal Processing Technology						
15:00							
16:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他			○		
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：何回か突然の休講や早終わりがあったがそれ以外はシラバス通りだった。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について			○		
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）： 部屋にキッチンが無いので基本的に食事は外に買いに行く必要がある。寮の共用スペースにキッチンはあるが飯時は混雑している。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

今回の留学において履修した専門科目はタイ語以外の3科目であり、その中の一つである Thermal Processing のみが海外留学単位として交換可能であった。主に食品加工における熱処理について学習するため微生物数や増殖曲線など既に学んだ内容も含まれるが、計算式や加工機器の仕組み等の専門的な内容を英語で学ぶことは困難であった。また、残りの2科目においても熱帯農業の概略を学ぶために広く浅く学ぶ必要がある。これも多くの英単語の知識を必要としたため復習は必須であった。毎回の講義では異なる教授が招待され、スライドに含まれている情報量も教授によって違っていた。よって講義中のメモや同級生との情報共有は重要であった。Introduction to tropical Agriculture は各分野の教授を講師として歴史や文化、社会構造といった多彩な視点から熱帯農業について学んだ。Principle of Tropical Agronomy は Introduction に比べてより具体的な内容まで踏み込んでおり、熱帯農業で多く用いられている灌漑方法や作物の特徴等について学んだ。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

留学初期の履修における最初の失敗は交換可能科目とその他の科目及びその単位数を正確に理解していなかった点だ。最初に大学に渡された留学生用の授業表を渡された際、当初履修を予定していた Thermal Processing は記載されていなかったため履修できないと思い込み大学に提出する履修届けに書かなかった。しかし、留学生用の通常科目では単位交換不可能なためわざわざ別のプログラムの授業である Thermal Processing を受ける手はずになっていた。この勘違いによって留学先の担当者に修正紙を持っていく2度手間になった。これは提出前に日本の大学の担当教員及び留学先の同級生と確認をしていれば起こらなかったミスであり、私も同級生、教員に聞いたことでミスに気付くことが出来た。よって、同級生間の情報確認は非常に重要であり、そもそも留学に必要な単位が頭に入れば問題は発生しなかった。よって事前履修関連の書類はもらった瞬間に読み、教員や同級生との再確認を行うことを推奨する。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

留学先であったタイには多くの人種が住んでおり、大学内外にかかわらず様々な国の人達とコミュニケーションを取ることが出来た。タイのプーケットはオーバーツーリズムが深刻化していると言われており、同じ空間で様々な言語が飛び交っているという初めての空間を体験することが出来た。この様な環境のため中国語や韓国語で話しかけられることも多く、英語が上手い下手以前の問題ではなく身振り手振りや英語や日本語の混じった単語のみで意思の疎通を試みることも多かった。この経験は言語の学習目的が上手く言葉話すことではなく、円滑に意思の疎通を図ることであると強く感じさせてくれた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

留学で得たものとしては知識と経験に分けられるが、知識が活かせる場面は専門的な職種等に限定されるのに対して経験は生涯を通して活かすことができると考える。留学で育まれた英語力、熱帯農学知識は素晴らしいものであり、少子高齢化や円安など多くの要因によって国際化が求められる日本において必要になる能力である。しかし、それ以上に留学先において新たな人間関係を構築し、環境に適応した経験こそが最も得難いものであったと考える。誰もが将来職に就き新たな環境に身を置く必要があり、その状況を先んじて体験した上で乗り越えられたことは大きな糧になるのではないか。加えて特に何かを強制されることのない環境下で現状の課題を自身で考え、解決する一連の流れは仕事に限らず学業においても役立つ習慣である。この様にこれらの経験は社会人のみならず大学生活においても有意義なものであると考える。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

大学主催のイベントが多く、留学初期には交流を広げる良い機会であった。休日には泊りでのイベントも存在し、料金は基本的には大学持ちであるため気兼ねなく楽しむことが出来た。また、KUはタイにあるもう一つの留学先と比べて日本人留学生が多く、その点も新たな環境になじむ上で有難かった。現地の学生も非常にやさしく、こちらから話しかけられなくても様々な場所へ誘って案内してくれる。タイ人は親切な人が多くたとえ英語が通じなかったとしても諦めずにコミュニケーションを取ってくれるため、全く意思疎通がとれない状況にはならなかった。授業においてもスライドが配布されるため追加で何かを用意する必要もなく助かった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

上記の通り KU は日本人留学生が多く、同じような境遇の日本人と比較的に友達になれる。また、現地の学生も皆親切で、こちらから話しかけられなくてもコミュニケーションを取ろうと努力してくれる意欲的な人が多い。そのため、留学先で孤立する心配は少ない。加えて、授業においてもテスト自体の配点はどの科目においても高くないため日々の課題に真面目に取り組んでいれば落胆する心配はない。万が一、点数が心もとなくても現地の職員や教授に事情を話せば力になってくれる。しかし、それに感けて、人とのコミュニケーションをおざなりにしたり、面倒くさがって交流を避けていたりすると余計に大変な目に合う。よって留学初期は大変だと思うが多くのイベントに参加してたくさん遊ぶことを推奨する。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2023年8月～12月
派遣大学名	カセサート大学	所属学部等	農学部熱帯農業学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Introduction to Tropical Agriculture	01013111	3	覚えることが多く難しい。テストは記述が多め。
Principles of Tropical Agronomy	01013231	3	テストは選択問題が多めだが記述もある。
Agro-industrial Thermal Processing Technology	01058223	2	テストは3回、グループでのプレゼンと個人のプレゼンがあった。
Thai Conversation in Everyday Life	01363201	3	テストがオンラインのため、授業内容を復習すればよい点数をとれる。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日	
07:00								
08:00								
09:00					Principles of Tropical Agronomy			
10:00								
11:00								
12:00								
13:00			Introduction to Tropical Agriculture	Thai Conversation				
14:00	Thermal Processing							
15:00								
16:00								
17:00								
18:00								
19:00								
20:00								
集中講 義等								

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：突然授業がなくなったり、時間が変更になったりした。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他			○		
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか					○
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか					○
その他特筆すべきこと（任意記述）：特にトラブルはなかった。体調不良は自分で解決できる程度だった。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Introduction は熱帯の特徴、熱帯の国々についての授業が多く、熱帯作物について学んだ。毎回先生が違うため、虫、植物、経済などの授業もあり幅広く熱帯農業について学ぶことができた。

Tropical agronomy では農業に使う機械や土壌、灌漑など農業に関して理解を深めることができた。

Introduction と重複する内容もあったが、introduction よりも理解しやすい内容だった。Introduction と Tropical agronomy は休日にフィールドトリップがあり、ココナッツ、バナナ農場などに行って実際に話を聞いた。

Thermal では、水分含量、D値、F値の計算の仕方を学んだ。殺菌、乾燥、フライ、抽出の技法を知り、それぞれの方法に適する食材について学ぶことができた。今まで学んできたことに一番近い内容だった。

Thai conversation では挨拶、ありがとう、ごめんなさいなど日常生活で使うタイ語を学んだ。タイ料理の名前やタイ料理でよく使われる食材のタイ語を知った。単語だけでなく、過去形・未来形のような文章も学んだ。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

1つ単語が分からないとどんどん内容が分からなくなる。分からない単語は授業中に辞書で調べて対応していた。先生によっては聞き取りにくいこともあったが、授業資料を読んで理解するようにしていた。タイの授業は3時間あることもあり、資料が多く理解するのに時間がかかる。テスト前に勉強するようでは全てをカバーすることができず苦しんだ。復習が大切であると感じた。毎回先生が変わるような授業では、先生によってテスト形式が異なる。先生にテストの形式や勉強方法などを聞いておけばよかったと思う。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

授業中に先生の話をとめて質問をしたり、授業後に質問をしている他国の学生を見て、日本にはない光景であると感じた。グループディスカッションの内容を代表者が発表する場面では、誰が発表するかを事前に決めず、順番になると自ら発表していることに驚いた。自分の意見を発言することの重要性を感じた。グループディスカッションでは他国の学生は積極的に発言する。また、どう思うか、どんな意見かを聞かれる。自信がなくても意見を言えば、他の人がフォローしてくれるし、話が進むので意見を言うのは大事だと思った。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

他国の学生との交流を通して自分とは異なる考え方、ものの見方の違いを感じた。別の観点から考えることで視野が広がったと思う。これを活かし様々な視点から物事を考え判断できる人になりたい。いろいろな意見があることが当たり前で、皆と違う意見であるからと言って意見を変える必要はないと感じる場面がいくつかあり、意見を発することを恐れないようにしたいと思った。

留学中、困難に直面することもあったがそれも含めてよい経験であり、物事をポジティブに捉えられるようになったと思う。自分で考えて工夫すれば何事も乗り越えられると気づいた。この先うまくいかないことに遭遇してもこの経験を思い出して前向きに捉えていきたい。

日本では、必要なものがなくなれば買いに行くという考えで生活していた。日本に比べて高いものもあり、ものを大事に使うことの大切さ、お金管理の必要性を改めて感じた。社会人になって働くようになったときにはこの経験を活かして無駄のない生活を送れるようにしたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

寮は問題なく快適に過ごすことができた。1階には勉強スペースとウォーターサーバーがあったため水を毎回買う必要はなかった。勉強スペースはエアコンが効いていて、周りに勉強をしている人がいて集中できるためよく利用していた。寮の近くには屋台、コンビニ、少し歩けば小さなマーケットがあり、生活していて困ることはなかった。寮はセキュリティ面でも良かった。カードキーで寮の出入りを行い、24時間警備員がいるため安心して過ごせる。1階には他国の学生が集まったりご飯を食べたりしてコミュニケーションの場になっていた。日本人留学生が多く、何かあったら頼ることができる。寮の立地も良かった。歩いて10分ほどの位置に駅があり、日用品などが揃うモールまでは無料で行くことができた。出かける場合も電車で安くアクセスできる点が非常に良かった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

タイ人はとても優しく、英語が上手な人が多いです。英語をうまく話せなくても理解しようとしてくれる優しい人ばかりなので心配ないと思います。タイ料理は辛いもの、脂っこいものが多いです。No spicy と伝えれば全く辛くないため、辛い物が苦手な人も食べられます。劣化した油を使った揚げ物は腹痛などが起こるため、胃腸薬を持っていくと安心です。寮には夕方から23時頃まで診療所があるため、怪我や体調を崩した場合利用できます。大学のイベントはFacebookに掲載されるので、チェックしておくといいかもしれません。イベントでは他国の留学生と交流できて楽しいので参加をおすすめします。あっという間の4か月なので、体調に気を付けて楽しんでください。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	バイオサイエンスコース
派遣国名	タイ	派遣期間	2023年8月から12月
派遣大学名	カセサート大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Introduction to Tropical Agriculture	01013111	3	テスト前に渡される問題をやれば単位が取れた
Principles of Tropical Agronomy	01013231	3	授業資料の量が多くテスト勉強が大変だった
Table Tennis for Health	01175114	1	他の授業と比べて留学生との交流がたくさんできた
Thai Conversation in Everyday life	01363201	3	テストはオンラインなので単位が取りやすい

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:00							
09:00					授業		
10:00					授業		
11:00					授業		
12:00							
13:00			授業	授業			
14:00			授業	授業			
15:00			授業	授業	授業		
16:00					授業		
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

カセサート大学では日本の授業で学ぶ事ができない熱帯農業について学ぶ事ができた。熱帯の気候の特徴や熱帯で育てやすい作物、またタイの農業の歴史や東南アジアを中心とした世界との農業の関りを深く学ぶ事ができた。授業の一環で大学の外に出て学ぶ field trip が2回あったが日本の大学ではなかなかない機会だったのでとても良い経験になった。Field Trip ではココナッツ農場、バナナファーム、マッシュルームファーム、タイの野菜や花、魚などの食品が売買されている大きいマーケットなど2日間でさまざまな場所に行って学んだ。実際に授業で学んだ内容を見学し、タイの人からお話を聞くことでとても勉強になったし日本の農業と比較することができてタイと日本それぞれの農業の良さを感じることができた。日本の大学の授業では実際に農家やファームに行ってみ学する機会がほとんどないのでこのような授業は日本でも取り入れたら良いなと思った。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

事前にシラバスを読んでテストの配点が低いものを選択した。授業によっては field trip があるものもありとても楽しかったので履修して良かったと思う。また、体育の授業は座学の授業と比べて留学生とたくさん交流し話すことができたので履修して良かった。タイの大学は1回の授業時間が3時間ありとても学ぶ量も多かったため1回1回授業終わりに復習の時間を作らないとテスト前に苦労することになったので反省すべき点だなと思う。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

私がタイに留学に行って一番驚いたことはタイの人はとても時間にルーズなことだ。大学の授業でもタイの人はだいたい1時間くらい遅刻してくるし教授も遅刻してくることがあるのでびっくりした。タイの友達と遊びに行った時も集合時刻に遅れてくるし3時間くらい道路が渋滞していても「大丈夫よー!!!」と言って渋滞を楽しんでいるように見えた。日本人は5分前行動、遅刻厳禁という考え方が当たり前なのでタイの人のあまり時間を気にしないのびのびとした暮らしは良いなと思った。また、タイでは麺をすすって食べてはいけないという文化があることを学んだ。タイの友達とラーメンを食べに行ったときに「タイではスプーンとお箸でラーメンを食べるよ!」と言われ麺をすすって食べないのはなかなか難しかった。麺以外の食事は基本スプーンとフォークだったが食べる前は必ず食器をキッチンペーパーのような紙で拭く文化があることも学んだ。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

タイはバンコク以外の都市では交通の便があまり良くなかった。バンコク以外の都市では電車、バスが通っておらず基本車移動のため土日は交通渋滞が多く、道もガタガタなところが多かった。日本に住んでいるとほとんどの都市で電車やバスが通っているため車がなくても時間はかかるが交通手段に困らないがタイでは車を運転することができず、タクシーも都市から離れるほど乗ることが出来なかったので出かけた先で交通手段に悩むことが何度かあった。タイの友達は、今タイでは電車の発達が進んでいると教えてくれた。発達の手助けを日本がしていることも初めて知った。駅に行くと、この電車はタイと日本が協力して作ったと書いてあった。私はタイに留学して日本の交通手段の便利さに気づくことができた。電車、新幹線、バス、飛行機、船がさまざまな都市を結び乗り場や景観もきれいに整備されている。私は日本にいるときは当たり前だと思っていたがすごいことなのだと感じた。私は今回の留学でタイの人にとっても優しくしていただいた。またタイでは日本の技術がたくさん使われていることも知り現地で働いている日本人の方のお話を聞くこともできた。私は将来日本とタイの架け橋になれるような人になりたいなと思った。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

総合大学だったため農学部以外の学部がたくさんありキャンパスを歩くだけでとても楽しかった。キャンパスの中にはいくつも食堂があったし午後4時から開いているナイトマーケット、毎週金曜日には大きなマーケットも開催されていた。また、大学のサークル活動にも参加したが日本のアニメの話で盛り上がることでとても楽しかった。バンコクの中心地からも電車で40分ほどだったので交通のアクセスも良く遊びにも出かけやすかった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

タイの人は日本のアニメやジブリがとても大好きで流行りのアニメやジブリの有名なフレーズを知っておくと、とても話で盛り上がることで楽しかった。また日本のお菓子（特にお煎餅とグミ）は美味しいと言ってとても喜んでくれたので日本から持っていくと良いなと思った。日本から持っていなくてもタイには邦人向けのスーパーがありそこで日本のお菓子を買うことができたので帰国前に感謝の気持ちを込めてたくさんお菓子をあげた。また、9月に大学内で世界各国の料理が出店される international food festival がありそこで自分の国の伝統衣装を着ている人もいたためスーツケースに入れば浴衣を持って行くと良いと思う。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



←international 農学部の旅行



←international food festival



↑タイ人の友達と青山学院大学の友達とのカオヤイ国立公園旅行

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2023年8月～12月
派遣大学名	カセサート大学	所属学部等	農学部熱帯農業学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Introduction to Tropical Agriculture	01013111	3	軽いレポート課題が比較的多かった。
Principles of Tropical Agronomy	01013231	3	重いレポートが二つあった。
Agro-Industrial Thermal Processing	01058223	2	レポート課題とプレゼン課題が多くあった。
Thai Conversation in Every Life	01363201	3	テスト内容は易しかった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:00							
09:00					●		
10:00					●		
11:00					●		
12:00							
13:00			●	●			
14:00	●		●	●			
15:00	●		●	●			
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：休講の知らせがだいたい前日が当日で急であった。たまに授業スライドに現地の言語で記されていることもあった。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地			○		
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応			○		
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか			○		
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Introduction to Tropical Agriculture と Principles of Tropical Agronomy では、タイ国内の農業を詳しく知るための Fieldtrip という授業が組み込まれていて現地へ訪れ実際の農業形態を目で見て体験し、現地の人が取り組んでいる事業についてもその場で聞いて知ることができた。野菜や果物を売っている市場を訪れた時は日本では考えられない敷地の大きさと商品の量の多さに驚いた。ココナッツ農園を訪れた際は、大きさの違うココナッツによって製造方法が違うことが分かった。また害虫駆除の方法が斬新で原始的であり興味深かった。また、熱帯農業の授業の内容の中では、タイ国内の気候や地形について詳細に知れたことで、生産される穀物の背景を理解することができた。農業機械について学んだ授業があった。C4 植物や CAM 植物についてなどの知っている内容をもう一度深く学び、また農業機械のしくみや害虫についてなど今まで勉強したことのない内容についても学ぶことができた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

一回の授業時間が長い分、スライドの枚数もとても多いので週末は復習の時間を必ず設けた。また、スライドは前もって配られなかったのだからわからない専門用語や単語は授業時に電子辞書を使って調べていた。復習の時に一枚一枚丁寧に復習していると時間がかかりすぎると感じたため、担当の先生が多く説明していたところや、重要なことだと思ったスライドにはあとで見た時に分かるような印をつけ、ほぼ説明していない内容のスライドや飛ばしていたところにも後回しにするように印をつけていた。反省点としては、授業内容の説明を受けている時に専門用語の単語や単純な英単語の意味が分からないときが多くあり躓いてしまっていたので前もって勉強しておけば授業時に理解しやすかったと後悔した。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

私は、寮のルームメイトが日本の学生ではなくフィリピンの方で、年齢も離れていたもので価値観の違いをたくさん感じた。違和感に思った時は、友達や家族に相談していろんな人の考えを聞くようにした。この数か月間のルームシェアを通じて、自分の考えに固執しないことの大切さがわかった。これは海外・日本関係なく、人間関係をよく構築するために大切なことであるので、この数か月間のルームシェアはとてもいい経験になったと強く感じた。また、高校卒業後自ら全日制で約4年間タイの大学で学ぶことを選んだ日本人の学生を見て刺激を受けた。私自身も興味を持ったことや挑戦してみたいことは進んで調べて、チャレンジしていきたいと思った。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

タイの大学生やデパートの店員は、英語を話せる人が多く感心した。実際に英語を使って会話を楽しんでいる友達や現地の人を見て、私も英語力を上げたいと感じた。自分から英語を学べる環境をつくりまずは日本にいる海外の方とコミュニケーションができることを目標に自学に励みたい。将来的には海外事業に携わりたいと思った。また、自分の意見や希望を相手にしっかりと伝えられるようにでき、またいい関係をつくれるような伝え方をできるような人になりたいと思った。また、今まで自分の考えにはなかった相手の考え方や価値観を一度は受け入れられるような視野の広い人でいたいと思う。異国の地で、自分から動かないといけない環境下で積極性が身に付いた。日本に戻った今も分からないことはすぐに聞いて自分のやらなければいけない作業や課題をすぐに処理できるようになりたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

バンコクの中心地にあったため、週末に息抜きで観光名所に行くことができた。また、寮の前に屋台とコンビニがあったので安価で食事を済ませることができた。海外の大学の規模の大きさを目で見ることができた。サークルを本格的に取り組んでいる学生が多かったので、SNSで見えて楽しかった。サークルの体験会に参加した際も部活のような活気があって楽しかった。食堂がいろんなキャンパスにあり、安くておいしい料理を楽しめた。寮の最寄り駅が近く、去年まではモチット駅まで電車賃が無料であったので授業終わりの放課後もマーケットやショッピングモールに簡単に行くことができた。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

周りには日本人の学生が多いので、現地の人たちと関わりたいときは寮の一階の共同スペースで自分から話しかけに行ったり、サークルやイベントに参加したりするといいと思います。9月ごろにサークルの新歓のようなイベントがあってフェイスブックやインスタグラムに情報が載ると思います。寮の一階や各階に自主学習室の設備があり、一人の時間も作れます。寮の前のごはん屋さんですが、寮から見てカットフルーツ屋の右隣のお店のパッタイがおいしいです。授業は、内容は難しくないと思いますが、一回の授業の量が多いので復習やテスト勉強は早めにとりかかった方がいいと思います。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2023年8月から2023年12月
派遣大学名	カセサート大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Agro-Industrial Thermal Processing Technology	01058223	2	プレゼン、課題が多くテストも難しい
Introduction to Tropical Agriculture	01013111	3	テストの範囲が広く覚えることが多かったが内容は容易
Thai Conversation in Everyday life	01363201	3	テストは全てオンライン
Principle of Tropical Agriculture	01013231	3	テストの分量が多いが選択問題がほとんどだった

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日	
09:00					Principle of Tropical Agriculture			
10:00								
11:00								
12:00								
13:00			Introduction to Tropical Agriculture	Thai Conversation in Everyday life				
14:00	Agro-Industrial Thermal Processing Technology							
15:00								
16:00								
集中講義等	Field Trip <ul style="list-style-type: none"> ・ Introduction to Tropical Agriculture (11, Nov) ・ Principle of Tropical Agriculture (18, Nov) 							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	○				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：基本的に座学が多くグループワークは Thermal を除いて滅多になかった。また、基本的にひとコマ3時間だが早く終わることが多く2時間もいかない日もあった。英語は教授によって聞き取りやすさが異なるがスライドを見れば理解できるため、あまり心配しなくて良い。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他			○		
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか		○			
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）： 現地学生との交流の機会はほとんどなく自分から話しかけに行く必要がある。国際寮のため様々な国の人との交流ができる。寮の一階に保健室もあるため何かあればそこに行くことができる。また、食堂が大学内にたくさんあって飽きることはない。</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

タイでの農業について深く学ぶことができた。熱帯地方ならではの土壌や気候を利用してどのような方法で作物が育つのか、そして様々な熱帯作物の特徴などを知った。作物が育つ環境が日本と全く異なるため、収穫時期や懸念すべき点などにおいても違うことが改めて実感できた。使われる農業機械や家畜の牛の種類、害虫の種類など農業に関わるありとあらゆることを授業で学ぶことができた。日本でもここまで農業の専門的なことを学んだことが無かったため、非常に楽しく授業を受けることができた。また、食品関連でいうと原料から包装までの製品が完成する過程を一つ一つ理解を深めることができた。大学の工場で実際に何の機械を使って、どのようにして処理が行われているのかを知ることができてとても面白かった。それと同時に、どの工程においてもする意味があって非常に重要なものであるということが改めて分かった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業によってはライングループが存在し、そこで授業のスライドや予定が共有された。日本人学生が圧倒的に多いため授業中に現地の学生と関わることはほとんどなかったため、英語の聞き取り能力は伸びたが、コミュニケーション能力が上がったとは言えず、もっと積極的に話しかけるべきだったと反省した。しかし、プレゼンやレポートも多かったため英語をアウトプットする場がないわけではなかった。また、授業内容はほとんどスライドにまとめられているため聞き取れなくても心配ないが、テストに出る重要なことは口頭でしか言われないため終始授業に集中しなくてはならなかった。また、テスト勉強を直前になってから始めた科目はやはりテストの出来が悪かったため、しっかりと勉強の予定を立てるべきだったと反省した。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

日本とは全く異なる文化、価値観だと肌で感じた。まず、良い意味でルールにとらわれていないと思った。バス、電車は時刻通りに来ないうえ、電車の車内では色んな人の携帯音が鳴っていたり、トイレでは紙が流せない。さらに、屋台や服屋で働く従業員は携帯をいじったり、ご飯を食べている。また、自分の好きなスタイルを貫いて人の目を気にしない、という個性に満ちた人をたくさん目の当たりにした。しかし、タイではそれらが当たり前でみんなそれで納得して生きている。私も数か月住むとそれが当たり前になってすっかりその光景には見慣れた。そう考えると日本はいろんなルールが存在していてそれらをきっちり守っていたんだと思う。そして日本ではそれが正解のことでも、少し外に行くとそれは正解ではないということが充分に分かった。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

日本にはホームレスと呼ばれる人がいるが、タイにも存在していた。しかし、ただお金を恵んでくれと居座るのではなく、楽器を吹いたり花飾りをつくって売ったりと色々な方法でお金を稼ごうとしているのが分かった。その方法は決して良いことばかりではなく、手足を自ら犠牲にしてその姿を見せ、通りすがりの人の同情を買ってお金を稼ぐ人もなかにはいたのがとても印象に残っている。そして、大人だけでなくおそらく小学生くらいの子が制服を着てリコーダーを吹きながらお金を稼いでいる光景も目にした。このような経済格差はどここの国でも起こっている問題であると改めて実感し、今回の留学でこれらを実際に目の当たりにしたことはとても大事なことで忘れちゃいけないことだと思った。タイも経済発展はどんどん進んでいると思うが、今ある現状をスルーするのではなくしっかりと向き合うことが大切であると思ったのと同時に、これから自分は就職して働いていくが自分のためばかりを考えるのではなく、困っている人を助けるために何をすべきかを考えながら働いていきたいと思う。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

まず、大学の施設が非常に充実しており、図書館もとても広く自習机の数も多い。そして学食の充実感も物凄と思う。大学内はとても広いためバスで移動するのだが無料であるため乗り放題である。スタバやセブン、レストランなどもある。学内が一つの町みたいだった。また、授業の一環としていくつかのフィールドトリップに参加できたことも良かった。バンコクから離れていろんな農場の見学をするのだが、行く先々でたくさんのおもてなしをされ、現地の方のあたたかさに触れることができた。教授もみんな優しく、気さくに話しかけてくれ、タイ学生と教授を交えた焼肉パーティーに招待してもらったこともあった。また、学校へは制服を着ていくのだが服選びに困らなかったのはとても良かった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

日本人学生が多いため毎日英語を使うということはない。英語が苦手な人だったら過ごしやすすいが、英語が喋れるようになりたい人は他の大学が良いと思う。それか、積極的に話しかけることが必須である。また、寮は二人部屋で家賃はひとり 3000 バーツ(12000 円)。光熱費と一緒に毎月現金で払わなければならない。毎日の食事屋台で現金が必要になってくるため、現金を多めに持って行った方が良い。ATMでも現金を下せるが手数料が高い。クレカはモールやスーパーでは使える。寮前のフルーツ屋台はドラゴンフルーツ、スイカ、パイナップルなど種類が豊富で安いし量多い(80 円)。また、最寄りの駅がちょうど無料区間内であるため近くの大モールにタダで行ける。タクシーはとまっているのを捕まえるより、Bolt や Grab のアプリを使って呼ぶとぼったくられずにすむ。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）

